



### 感謝 そしてセンターの発展を願って

前所長 間世田 春 作

このたび3月31日をもちまして工業技術センター所長を退任すると同時に35年間にわたる県庁生活を終えることになりました。これまでの長きにわたり御支援、御協力を頂きました産学官の皆様へ心からお礼を申し上げます。

この一年間、企業の皆様が困ったときに役立つ「希望のかおりのするセンター」をめざして、所長の任に当たってまいりましたが、職員の熱意や各界の皆様の御指導・御鞭撻によりまして、その任を全うできたことに対しまして心より感謝を申し上げます。

また、この平成19年度は、工業技術センター創立20周年を迎える節目の年にもあたりました。これを記念し、平成9～18年度までの10年間の各部の現状と成果を主眼にまとめた記念誌の発行や、その間の研究成果の発表を20周年記念研究成果発表会として職員や関係者の協力のもと成功裏に実施することができたことにも感謝しています。

これからも当センターが、次の新たな節目に向かってさらに発展していくことを願っています。

なかでも研究開発については、商品化や技術の実用化を目標に地道な努力が大切だと思います。

現在、県の財政は非常に厳しいですが、今まで取り組んできた共同研究や事業化研究の成果が確実に現れ、起業や事業の拡大に繋がってきています。今後とも、シラスの活用や焼酎酵母の開発などにみられるようなサクセスストーリーを一つでも多く作るよう努力し、研究開発の重要性やセンターの必要性を産業界や関係機関にアピールし、新たな飛躍に通ずることを期待します。

また、研究開発と共に当センターの非常に重要な使命である技術支援にも力を注いで欲しいと思います。依頼分析・試験や設備使用さらには技術相談・指導、人材育成など県内中小企業にとってなくてはならないものでありますし、この技術支

援の結果も商品開発や技術移転に結びつきつつあります。

この研究開発と技術支援を車の両輪として、「県内中小企業の技術的拠りどころ」という役割を今後とも強力に推進してほしいと思います。

また、当センターの業務や活動を広く正しく知ってもらうための広報活動も重要だと思います。

この一年間、テレビ、新聞等で商品化や事業化の成果をたびたび取り上げていただき大いにPRすることができました。職員の皆さんの頑張りや協力はもちろんですが、取り上げていただきましたマスメディアの方々にも深く感謝致します。

これからの時代、科学技術を軸にした経済の活性化がいわれ、県でも、第二次産業の振興や地域資源を活用した産業施策の展開を進めています。

また、当センターでは、平成20年度から提案公募型事業への取り組みもさらに推進されます。

いずれにしても、研究開発やその成果の事業化に対しては、産学官の様々な機関の連携が必要になってきます。その中であって、当センターの役割はますます重要性を増してくると思います。

当センターの持つコーディネート機能を含めた総合力を遺憾なく発揮し、産学官の牽引役としてその役目をはたされることを期待しています。

最後に、産業界をはじめ各界の皆様には、今後とも当センターの御活用と御支援をよろしくお願いしますと共に、皆様の益々の御発展と鹿児島県産業界の隆盛を祈念しまして、退任の御挨拶とさせていただきます。